

製品名: シスタチン E/M ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab09697

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用**希釈倍率** IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000**分子量****抗原情報**

遺伝子名	CST6
別名	CST6; Cystatin-M; Cystatin-6; Cystatin-E
遺伝子 ID	1474.0
SwissProt ID	Q15828
免疫原	ヒトシスタチン E/M の内部領域から得られた合成ペプチド。

背景

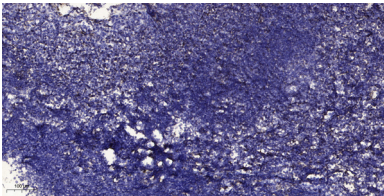
シスタチンスーパーファミリーは、複数のシスタチン様配列を含むタンパク質を包含する。メンバーの中には活性システインプロテアーゼ阻害因子を持つものもあれば、阻害活性を失っているか、あるいはそもそも阻害活性を獲得していないものもある。このスー

パーファミリーには、タイプ1シスタチン（ステフィン）、タイプ2シスタチン、キニンノーゲンの3つの阻害ファミリーが含まれる。タイプ2シスタチンタンパク質は、様々なヒトの体液や分泌物中に見られるシステインプロテアーゼ阻害因子の一種であり、保護機能を発揮すると考えられている。この遺伝子はタイプ2ファミリーに属するシスタチンをコードしており、転移性乳がん細胞では原発性腫瘍細胞と比較して発現が低下している。発現の消失は、原発性腫瘍が転移性表現型へと進行することと関連している可能性が高い。[RefSeq 提供、2008年7月]機能: カテプシン B を中等度に阻害するが、カテプシン C に対しては活性を示さない。、PTM : トランスグルタミナーゼの基質。アシル基の受容体として作用するが、アシル基の供与体としては作用しない。、類似性: シスタチンファミリーに属する。、組織特異性: 正常皮膚の顆粒層、乾癬皮膚の顆粒層 / 有棘層、およびエクリン汗腺の分泌コイルに限定される。鼻腔では低い発現レベルが認められる。、

研究分野

-

画像データ



パラフィン包埋ヒト扁桃腺の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した（4°Cで一晩）。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した（室温、30分）。